

## 食用蛙養殖試験

志布志町の委託によるもので29年度より親蛙の飼育中で本年度にオタマジヤシ或は幼蛙を放養する計画であつたが、産卵せず初期の目的を達成することが出来なかつた。

蛙ノ番生存

## 黒蝶貝真珠養殖試験

29年度志布志町の委託により志布志港内で本養殖を試みたところ好結果を収めた。本年度も志布志町より委託を受けたので前年度同様志布志港内で養殖中である。

枝

枝——長さ6間の孟宗竹5本を1間間隔に並べ径1.5寸位のワラ縄(コールタール染)でつなぎ一端は旧棧橋の土台に他方は約10メのピクをもつて錨とした。

養殖籠——前年度同様三重県で使用している金網製の籠でこれをコールタール染し37.5cm径を使用した。

吊り綱——2.5分のサイザルロープをコールタール染し用いた。

貝

8月上旬よりマスク式潜水衣を使用し、志布志湾沿岸を調査したが、予定数に達せず多数の通り山川町長崎岸にて採集し指導船しらさぎで運搬した。

採 取 地	母貝数
志布志港北柳島	13ヶ
志布志町夏井沿岸	6ヶ
湯山町沿岸	1ヶ
内之浦町沿岸	8ヶ
佐多町沿岸	11ヶ
根占町沿岸	24ヶ
山川町長崎岸	431ヶ
計	494ヶ

入

採 入 月 日 昭和30年8月26日～30日 5日間

採入母貝数 454ヶ (1籠～12～13ヶ)

採入半円枚数 787ヶ

サイズ別内訳 12% ~ 275ヶ 13% ~ 328ヶ 14% ~ 146ヶ  
15% ~ 38ヶ

採入期間中の経過

採入の翌日すでに5ヶ斃死し、その後22号台風による流水のため4籠を流失し又残っていた籠内でも計5ヶ斃死し、11月7日の調査では18ヶの斃死貝をみた。

尚全日は貝採取を行った。

投入前後における養殖場所の水温及び比重は次の通りである。

月日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
水温 <sup>°C</sup>	27.0	28.0	28.2	27.9	27.6	25.9	27.0	26.9		25.9	25.4	26.3
比重 <sup>g/cm<sup>3</sup></sup>	23.810	24.202	23.751	24.110	23.824	23.513	22.850	23.330		18.420	15.040	21.988

月日	9月1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
水温 <sup>°C</sup>	26.0	25.4	26.8		27.3	26.8	27.4
比重 <sup>g/cm<sup>3</sup></sup>	23.080	21.873	22.794		22.737	22.794	24.505

1、2月下旬取揚げの予定

## 海人草増殖効果判定調査

鹿児島大学水産学部田中教授の御援助を仰ぎ垂水町荒崎において海人草の増殖効果判定調査を行った。

調査概要

当地先の海人草の生産量は28年120×29年300×となっている。

作業前の予備調査及び現場調査

試験地荒崎の底質は砂泥地に礫及び2~3×~20~30×の岩石が散在し海人草は潮時水深0.5尋~3尋位の丸の岩石上に生育している。

藻体はどの伸長良好で3寸内外を示しているが冷んどヒメモサヅキが附着している。

胞子の成熟程度は8月12日の調査で一部放出が認められたが施設適期か否かは判断できなかった。その他の生物としてはホンダワラ、テングサ、及び満潮線間にはフノリが生育が見られる。

事業実施状況

8月9日より10日までの3日間漁協自体で7~10×の容岩石を1日1,500ヶ計45,00ヶを水深2.5尋に散布した(紫処理)

8月12日は4~5×~10×の容岩石1,500ヶに種子蒔付けし水深2.5尋に散布した。水温~28.1°C

種子蒔付けの方法は桶内の海水中に約1時間陰干した原藻約13×を30分間浸漬し胞子を出させ直ちに石に蒔き付けた。尚桶内の原藻は20ヶの網袋に入れて種子蒔付けた石に掛りつけて胞子着生の増加を計った。

効果調査

海人草の生育状況及び寄敵生物の着生状況投入した石の集積、埋没、転底等について8月中旬頃調査する予定である。

## 沿岸資源委託調査